

## 1 調査の目的

本県の復興を加速させるため、既存井戸の協力により、3つの観点で地下水資源の現状を把握し、地下水の有効活用につながるよう、公表する。

- (1) 地下水への放射性物質の影響等を調査し、生活用水としての地下水の安全性を確認する。
- (2) 復興推進のため、生活・産業をはじめ地下水の利用が期待されていることから、地下水の質と量を確認する。
- (3) 東日本大震災時、長期間の断水となったことを踏まえ、大規模災害等の発生に備え、既存井戸の地下水が災害時に利用可能か確認する。

※ 本調査は平成25年度～平成27年度までの3ヶ年にかけて実施するもので、今回は2回目となる調査。  
**平成25年度の調査結果概要**は下記のとおり。  
 ○ **放射性物質検査：調査した200箇所の井戸全てでセシウムは不検出。**  
 ○ 水素イオン濃度、鉄、マンガン、フッ素等の水質基準を超えた井戸が20箇所\*  
 ○ 揚水量が1,000 m<sup>3</sup>～100 m<sup>3</sup>と推定される地域が道路や川沿いの地域、平地の住宅地や商工業地に多数存在。  
 ○ 災害時の地下水提供に同意があった井戸は163箇所。

## 2 調査の概要 (調査期間 H26.11～H27.3)

平成26年度福島再生加速化交付金  
(地下水資源対策事業)  
事業費 15,950千円

- (1) 調査対象：中通り、浜通りの42市町村  
(帰還困難区域を除く)
- (2) 調査方法：

○ 現地調査箇所：300箇所  
(公共井戸：145箇所 個人井戸：136箇所 企業井戸：19箇所)  
 ※既存井戸2,136箇所の資料を基に、地形的観点・井戸水利用の目的別重要度・調査箇所の粗密を考慮して抽出した。

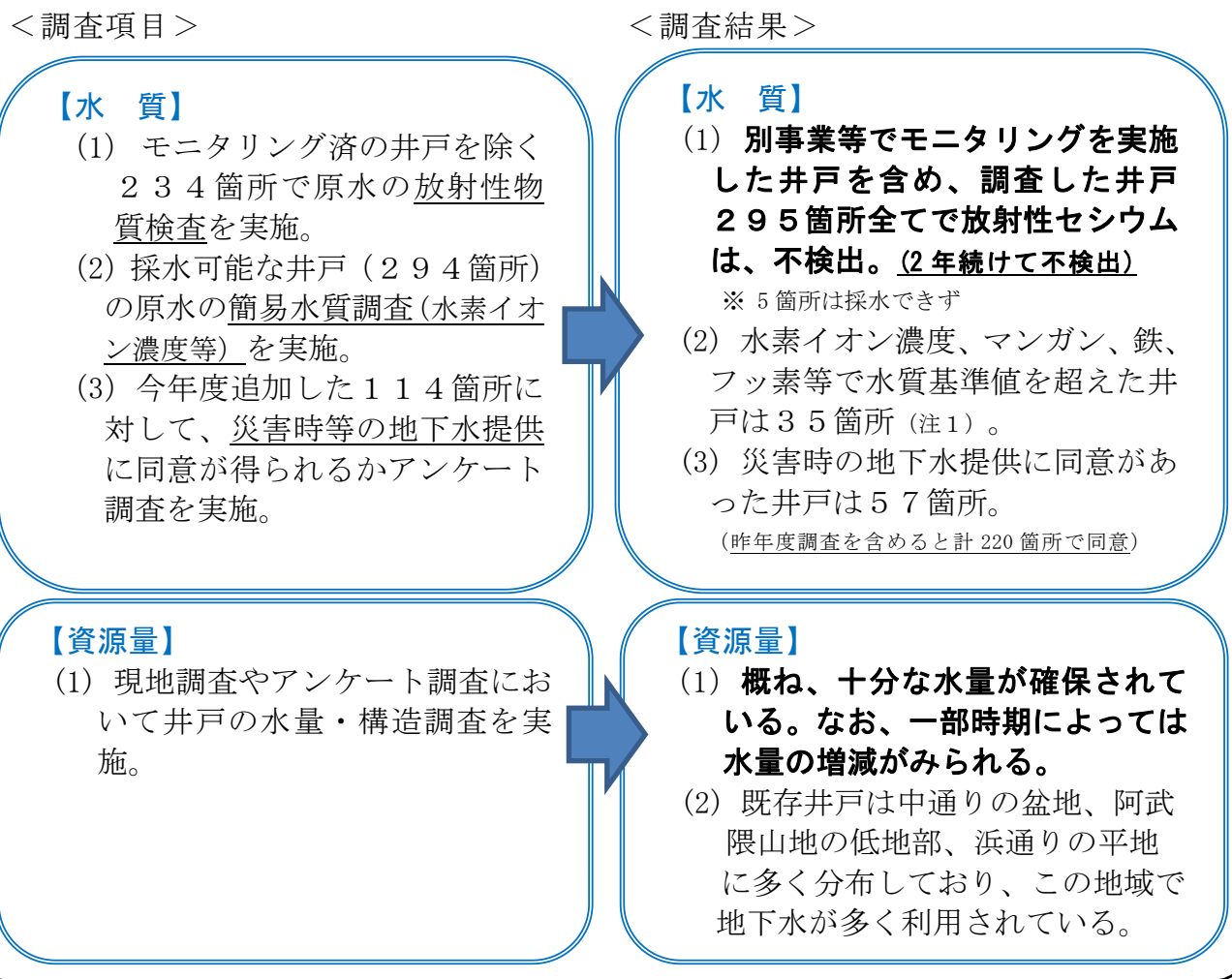
## 3 調査成果の活用

- (1) 地下水台帳  
調査した井戸300箇所の地下水の水量・場所・水質・所有者・災害時の活用等の項目の内容を台帳として整備。
- (2) 放射性物質検査実施井戸位置図  
検査を実施した井戸295箇所を視覚的にわかりやすく提供できるよう位置図を作成。

- 市町村、企業、関係機関等へ情報提供し、**風評の払拭や帰還の判断材料、企業進出等のインセンティブ**に役立てていく。  
また調査結果の概要等は県ホームページで周知する。
- 調査結果の提供により、水量の乏しい地域での地下水涵養の推進や過剰揚水の未然防止、豊かな地域での企業立地等、各地域の地下水資源量の応じた有効活用を推進する。
- 市町村が行う「災害時井戸協力制度」の取り組みに、調査結果(地下水台帳、放射性物質検査実施井戸位置図)を役立てる。

## 4 平成27年度の取組

現地調査箇所数の一層の充実を検討し、引き続き調査を実施する予定。



### 参考 平成26年度調査数量内訳

( ) 内は H25 年度調査からの増減数

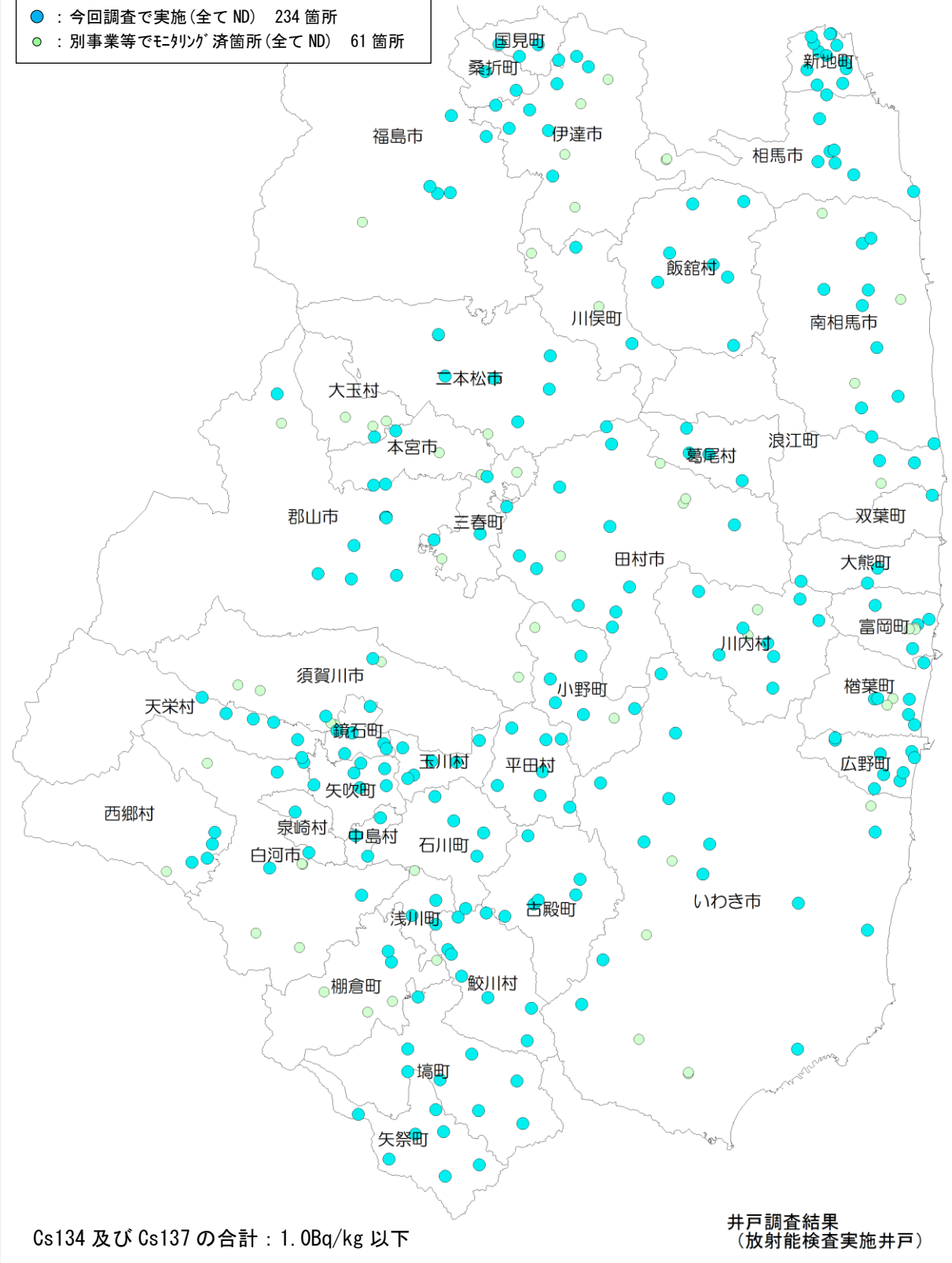
現地調査対象		放射性物質の有無		簡易水質調査 (放射線物質を除く)		アンケート結果	
井戸数	調査数	調査対象	調査数	調査数	基準超過	アンケート数	アンケート結果
2,136 箇所 (+82)	300 箇所 (+100)	300 箇所 (+100)	234 箇所 (+107)	294 箇所 (+94)	35 箇所 (+15)	114 箇所	438 箇所
300 箇所 (+100)	0 箇所 (±0)	0 箇所 (±0)	0 箇所 (±0)	0 箇所 (±0)	0 箇所 (±0)	地下水分提供の可否	有効回答数 84 箇所 提供可能井戸 57 箇所
						水量について	有効回答数 102 箇所 十分有り 71 箇所
							H25, H26累計 316 箇所 220 箇所 374 箇所 244 箇所

- ・ H25 年度調査からの継続：186 箇所、H26 年度調査で追加：114 箇所
- ・ H25 年度に調査した200箇所の井戸について、H26 年度調査で継続できたものは14箇所減の186箇所となった。  
(所有者と連絡が取れない等の理由による)

(注1) 井戸から取水したままの原水を調査。水素イオン濃度等が水質基準値を超過したものであっても、水道等の飲料水となる原水については適切に浄水処理され、水質基準に適合した状態で供給されています。

# 放射性物質検査実施井戸位置図

- : 今回調査で実施(全てND) 234 箇所
- : 別事業等でモニタリング済箇所(全てND) 61 箇所



・全てND (不検出: 検出下限値 1.0Bq/kg 未満)

## H26地下水資源調査 集計表

	市町村	資料数	現地調査 箇所数	放射性物質検査数			災害時提供 可能井戸数 合計値	水素イオン濃度等 が水質基準を 超えた箇所
				今回測定	他検査等	測定不可		
1	福島市	149	8	5	1	2	7	①鉄化 ②フッ素 ③硝酸性窒素 3
2	郡山市	242	11	9	2	0	11	①鉄化 ②鉄化、マンガ ③フッ素 ④鉄化 ⑤鉄化、マンガ 5
3	いわき市	113	19	13	6	0	19	①鉄化 ②水素化、フッ素 ③フッ素、鉄化 ④硝酸性窒素 4
4	白河市	67	9	4	5	0	9	①鉄化 1
5	須賀川市	109	7	1	6	0	4	0
6	相馬市	66	10	8	2	0	10	0
7	二本松市	66	7	7	0	0	4	0
8	田村市	54	16	12	4	0	15	0
9	南相馬市	103	12	9	3	0	11	①鉄化 ②鉄化 2
10	伊達市	136	13	9	4	0	15	①硝酸性窒素 ②鉄化 2
11	本宮市	65	5	2	3	0	3	①フッ素 1
12	桑折町	120	2	2	0	0	1	①鉄化 1
13	国見町	17	5	4	1	0	5	0
14	川俣町	60	5	2	2	1	0	0
15	大玉村	21	4	1	3	0	6	0
16	鏡石町	52	7	7	0	0	4	①鉄化 1
17	天栄村	16	5	5	0	0	2	0
18	西郷村	40	4	3	1	0	1	0
19	泉崎村	52	2	2	0	0	1	0
20	中島村	42	3	3	0	0	0	0
21	矢吹町	57	8	8	0	0	7	0
22	棚倉町	37	6	2	4	0	5	①水素化 ②水素化 2
23	矢祭町	21	7	7	0	0	3	0
24	塙町	14	8	8	0	0	6	①水素化 1
25	鮫川村	17	9	9	0	0	0	①鉄化、マンガ 1
26	石川町	16	5	5	0	0	3	①硝酸性窒素 1
27	玉川村	22	6	6	0	0	4	0
28	平田村	22	8	7	0	1	6	0
29	浅川町	30	3	2	1	0	0	①鉄化、マンガ 1
30	古殿町	17	6	6	0	0	6	0
31	三春町	103	5	3	2	0	5	0
32	小野町	29	7	5	2	0	4	①マンガ 1
33	広野町	18	10	9	0	1	7	①硝酸性窒素 1
34	檜葉町	17	9	6	3	0	8	0
35	富岡町	15	7	4	3	0	2	①マンガ 1
36	川内村	20	10	8	2	0	10	①水素化 1
37	大熊町	18	3	3	0	0	3	0
38	双葉町	3	1	1	0	0	1	0
39	浪江町	16	4	3	1	0	1	0
40	葛尾村	12	4	4	0	0	3	①水素化 1
41	新地町	29	13	13	0	0	5	①鉄化 ②鉄化 ③鉄化 ④鉄化 4
42	飯館村	13	7	7	0	0	3	0
	合計	2136	300	234	61	5	220	35

※帰還困難区域を除く

※災害時協力井戸数は H25 調査と H26 調査の合計値

※測定不可は構造上の問題や所有者の検査辞退による

※井戸から取水したままの原水を調査。水素イオン濃度等が水質基準値を超過したものであっても、水道等の飲料水となる原水については適切に浄水処理され、水質基準に適合した状態で供給されています。

【参考】PR用チラシ

H26 年度作成

### ～ 福島県の地下水 ～

<中通り・浜通り地域>

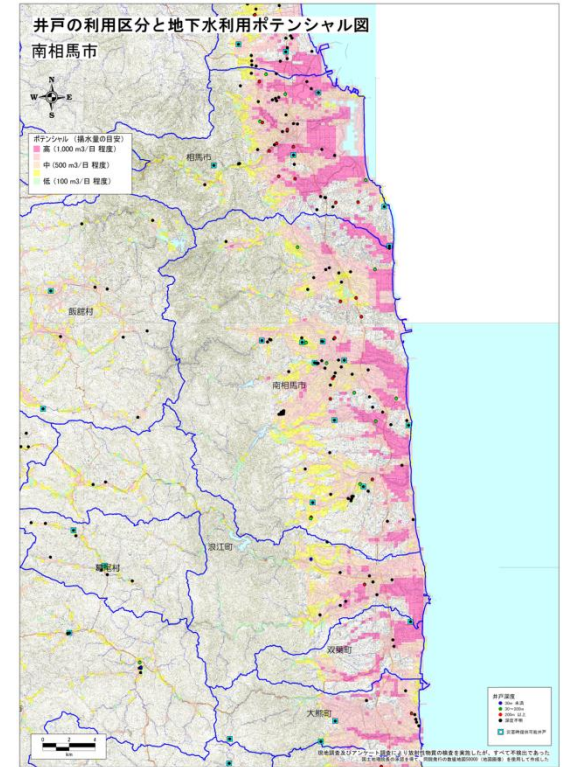
このリーフレットは、福島県中通り・浜通り地域の市町村を対象として、地下水の利用しやすい箇所を視覚的にわかりやすく提供できるよう、「地下水利用ポテンシャル図」として作成したものを掲載しております。

地下水利用ポテンシャル図は将来の地下水利用を見据え、地下水が比較的多く存在し、利用しやすい箇所を示したものです。地形や地質の特徴から地下水の多く集まる場所を推定し、土地の傾斜や利用状況から開発のしやすさを評価しました。

皆様が地下水を利用する際に参考にいただければ幸いです。

福島県

【参考】地下水利用ポテンシャル図  
(南相馬市等の例) H25 年度作成



**災害時協力井戸**

- 飲料水以外の生活用水に使用して下さい。
- 飲料水は市対応の貯給水施設等で供給される飲料水を使用して下さい。

伊達市

【参考】災害時協力井戸 (伊達市の例)